



# 出前講座報告書



日時：2020年11月9日 開催場所：県南保健福祉事務所

## 🍃 テーマ「低所得層や経済的弱者層の人々のための心理支援」

新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言や政府要請は、感染症の流行を抑えることに貢献しているものの、同時に社会全体に経済的な負担をかけてきました。今回は、アメリカ心理学会（APA）により作成された「低所得層や経済的弱者層の人々のための心理支援に関するAPAガイドライン」について、社会階級に関連するスティグマや経済的背景への配慮も踏まえて学びました。



## 🍃 講義の様子



講義では始めに、ガイドラインの概要を確認しました。ガイドラインは4領域9ガイドラインで構成されており、それぞれのガイドラインについて根拠の説明とその応用（なにをすればいい？）の提案が掲載されています。また、アメリカ社会を参考に作成されたガイドラインのため、特に応用の部分では、自分の職場ではどうするかを考える必要があるという注意点がありました。

概要の確認後は、9つのガイドラインの詳細について事例も交えながら学びました。

## 🍃 講師紹介



福島県立医科大学 医学部  
災害こころの医学講座  
助教授 小林智之

- 略歴：同志社大学大学院 心理学研究科 博士後期課程修了（心理学博士）。福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の特別研究員、日本学術振興会の特別研究員を経て2020年6月より現職。
- 専門領域：社会心理学、社会的認知、集団間関係

## 🌀 演習の様子

演習では、参加者の皆さんにガイドラインについて①良いと思う点、②良くないと思う点、③②を改善するためのアドバイスを記入してもらいました。

※以下①についていただいたご意見（一部抜粋）

- ガイドライン7で心理療法の手法が知れて良かった
- 生活文化の違いや知識不足が、無意識に偏見を生むことについて、支援者が意識することの重要性を感じた
- 援助する側の留意点が深く掘り下げられていた



## 🌀 アンケート集計結果

参加者は15名、アンケート回収は15名でした。

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について	
●配布資料は適切だった	73%
●時間配分は適切だった	73%
●進行は適切だった	80%
講義について	
●講義内容が理解できた	33%
●講義は今後の保健活動に役立つと思う	53%
●学んだことを同僚に伝えたいと思う	87%
演習について	
●演習は今後の保健活動に役立つと思う	40%
あなたご自身について	
●研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	27%
●研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	33%

\*5段階評価：「1.全くそう思わない」～「5.大いにそう思う」の4と5の合計

## 参加者の声（一部抜粋）

■低所得者層や経済的弱者層の心理は今回の研修を通して、おおまかに理解することができたと思う。しかし、その先の支援で必要となることについて、もう少し詳しく学びたいと思った。その先の繋げ方が、難しいと思います。

■必ずしも、立場が同じ人の話をきくわけではないので、無意識に偏見をもってしまう。今後、相手の話をきくときには、気をつけたいポイントである。

## 復習ポイント

- ✓ 支援者がすればいいこととして、自分の職場環境の見直しが挙げられる理由は何か。
- ✓ 無意識の偏見の要因にはどのようなものがあるか。

## しゅくだい

ガイドラインの応用セクションで紹介した内容を実際に試してください。



本事業は、環境省委託事業「放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）」において採択され実施しております。

